

このメッセージの表示に問題がある場合は、[ここ](#) をクリックしてWebブラウザで表示してください。



UpToDateニュース

発行：2024年4月30日



「UpToDate Connection」に掲載している製品関連情報の抄訳記事の他、お役に立つ情報を日本語でお知らせしています。リレーコラム「UpToDateとわたし」は、日々の臨床や医学教育にEBMを実践されている医療従事者の皆様に原稿を執筆いただいています。ぜひ最後までお読みください！

アカウント再認証はお済みですか？

UpToDateログインIDをご確認ください。アカウント認証は90日で失効しますが、施設内でアカウントにログインすれば復活します。

目次

- 製品ブランディング変更のお知らせ
- EBM実践者のリレーコラム「UpToDateとわたし」
 - Intermountain LDS Hospital 田中 竜馬先生 執筆
- 臨床情報
 - 成人における体重減少のためのチルゼパチド^(*1)
 - ネフローゼ症候群に対する経口コルチコステロイド薬の単回投与と分割投与の比較^(*1)

- 救急医が行う胆嚢炎に対するポイントオブケア超音波検査^(*1)
- UpToDate活用のヒント
 - 一般外科分野の閲覧数上位トピックランキング
 - 導入事例：「常に成長し、世界一を目指す病院」はりま姫路総合医療センター
- イベント情報
 - 「第26回日本医薬品情報学会総会・学術大会」協賛のお知らせ
 - 定期オンラインセミナー開催のお知らせ
- 読者アンケート

本ニュースレターに含まれるUpToDate掲載トピックは、編集時点の情報です。最新情報は、UpToDateにログインしてご確認ください。専門領域別の「What's New」や「Practice Changing UpDates」を読むには、[こちらをクリック](#)してください。

(*1) 2024年3月27日発行 Current UpDate (Volume 10、Issue5) 掲載記事抄訳

本ニュースレターは、UpToDate施設契約のご利用施設に在籍し、アカウント登録を完了しているお客様にお届けしております。以下のリンクからUpToDate臨床トピックにアクセスできない場合は、所属施設の契約管理者様にお問い合わせ下さい。

製品ブランディング変更のお知らせ

LexicompがUpToDateブランドに加わりました

最善の診療を支援するために、ウォルターズ・クルワーの提供する信頼性が高く連携した臨床/医薬品意思決定支援と患者エンゲージメントソリューションが1つのブランドに統合され、UpToDate[®]ソリューションスイートとして生まれ変わりました。

これに伴い、医薬品情報リソースLexicompは、「UpToDate Lexidrug」という名称に製品名変更いたしました。Webサイトやご契約関連書類での表記も随時更新してまいります。

詳細は[こちら](#)をお読みください。

EBM実践者のリレーコラム「UpToDateとわたし」

教科書はもういらない!? デジタル時代の勉強法

Intermountain LDS Hospital
呼吸器内科・集中治療科
ICUメディカルディレクター
田中 竜馬

私がUpToDateと（間接的に）遭遇したのはこの本（下掲写真）を通じてです。一見関係ないように見えるかもしれませんが、この本“Clinical Physiology of Acid-Base and Electrolyte Disorders”こそがUpToDateの始まりです。

そもそも故Burton David Rose先生がUpToDateを始めたのは、この本を電子化しようとしたことがきっかけなのだとか。出版社にかけ合うも色よい返事を得られず、自分で作業を始めたのだそうです。Rose先生は腎臓内科医なので、最初のUpToDateは腎臓内科と高血圧の内容から始まりました。これが世に出たのが1992年のことです。私が直接的にUpToDateを使い始めたのは、米国で内科研修医をしていた2000年頃からです。かれこれ20年以上お世話になっています。

現在の視点からだと、「教科書を電子化して必要に応じてアップデートする」のはなんら新しくないかもしれませんが、しかし1992年というのは、PubMedが正式に始まった1997年よりさらに前のことです。Googleの創業も1998年なので、Rose先生の考えがいかに時代を先取りしていたのかわかります。

MacでHyperCardを使って開発したというところが、Mac使いにとってはさらに親近感の湧く話です。「自宅のガレージで開発した」という話を聞いたことがあります。さすがにこれはRose先生が「医療界のスティーブ・ジョブズ」と呼ばれることからきた創作ではないでしょうか？

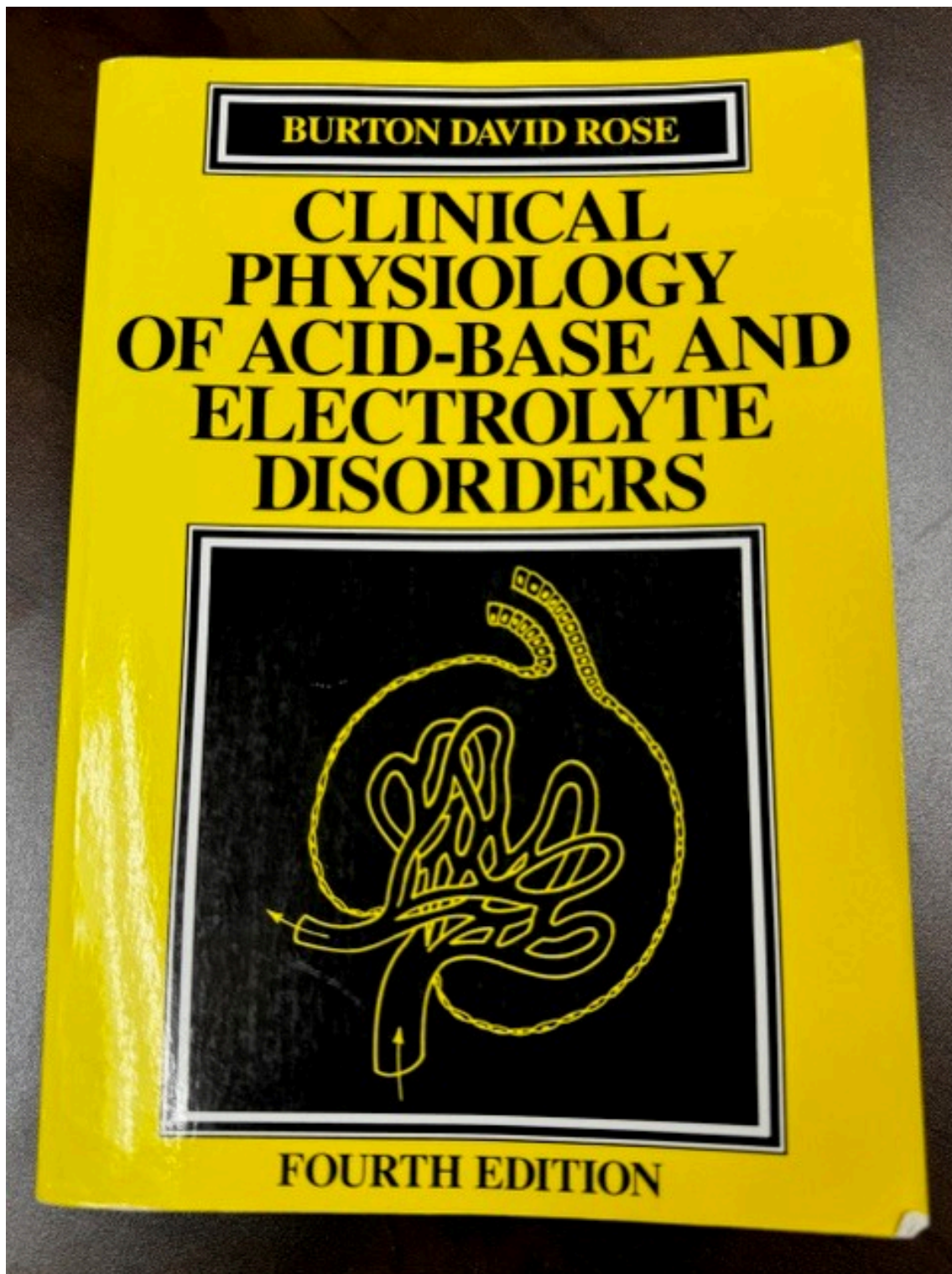
さて、このUpToDateですが、その後、内分泌、循環器、リウマチ、呼吸器・集中治療、消化器と守備範囲を増やし、最終的に今のような幅広い内容を含むようになっていきます。医療業界において最もよく使われる二次情報源になっており、「UpToDateさえあれば教科書はもういらない」などと言う人までいます。確かに、“What’s New”に最新の情報がまとめられているので、COVID-19のように日々新しい情報が出てくるような状況では情報の整理に重宝しました。オンラインでたいていのことはすぐに調べられるようになり、白衣のポケットいっぱいアンチョコ本を詰め込んでいた時代からは隔世の感があります。

かなり前の話になりますが、UpToDateの検索で最も頻度が高いのが「低ナトリウム血症」で、その次が「高カルシウム血症」とRose先生が発表されていたらしいです。いずれもUpToDateに詳細な診断アルゴリズムが掲載されている項目です。それほど目新しい考え方があるわけではありませんが、臨床で遭遇する機会が多く、病態を理解していなければ診断・治療が難しい項目でもあります。このような内容をきっちり理解するには、いきなりUpToDateを読み込むより、むしろ病態生理をわかりやすく解説した教科書をまず一読することをお勧めします。それこそ、Rose先生の“Clinical Physiology of Acid-Base and Electrolyte

Disorders”のような。ただ単にアルゴリズムを毎回辿るよりも、深い理解が得られます。UpToDateの検索頻度が高い項目でこそ、実は教科書が役立つような気がします。

次回のレターは青木眞先生にお願いしました。私や前号の岩田健太郎先生を含め、多くの医療者のロールモデルになっている先生です。どのようなお話をしてくださるのか楽しみです。

写真：筆者の所有する“Clinical Physiology of Acid-Base and Electrolyte Disorders”第4版。1994年発行。



臨床情報

成人における体重減少のためのチルゼパチド

【Practice Changing Update】 米国食品医薬品局は最近、グルカゴン様ペプチド1 (GLP-1) とグルコース依存性インスリン分泌刺激ポリペプチド (GIP) のデュアル受容体作動薬である皮下投与型チルゼパチドを、長期的な体重管理に用いることを承認しました。肥満成人を対象とした2つの無作為化試験では、最高

用量（週1回15mg）のチルゼパチドで平均15～21%の体重減少が認められました。2つの試験のうちより大規模な試験において、体重が5%以上減少した被験者の割合は、すべてのチルゼパチド投与群（週5～15mg）で80%以上あったのに対し、プラセボ投与群では35%でした。投与量に関連した消化器系の副作用（悪心、下痢、便秘）を多く認めましたが、概して軽度でした。直接的な比較はまだ十分とはいえませんが、チルゼパチドによる体重減少の程度は、他の薬剤よりも大きいと考えられます。このことから、我々は、チルゼパチドは長期的な体重管理のために望ましい薬剤であると考えます。

詳しくは、「[Obesity in adults: Drug therapy](#)」（成人における肥満：薬物療法）内のセクション「[Efficacy for weight loss](#)」（体重減少に対する有効性）をご覧ください。

ネフローゼ症候群に対する経口コルチコステロイド薬の単回投与と分割投与の比較

プレドニゾンまたはプレドニゾロンは、特発性ネフローゼ症候群（NS）の小児に対する第一選択薬です。NSを初めて発症した60人の小児を対象とした無作為化試験では、経口コルチコステロイド薬の、毎日一回の投与、または分割投与により、被験者全員において6週間以内に寛解が得られました。一方、治療6週間後の視床下部・下垂体・副腎軸の抑制は、一括投与群（83%）に比べ分割投与群（100%）でより多く認められました。これらの知見は、小児のNS初回発症例に対しプレドニゾンを用いた1日1回一括投与するというわれわれの治療法を支持するものです。

詳しくは、「[Treatment of idiopathic nephrotic syndrome in children](#)」（小児における特発性ネフローゼ症候群の治療）内のセクション「[Initial steroid course](#)」（初期ステロイドコース）をご覧ください。

救急医が行う胆嚢炎に対するポイントオブケア超音波検査

救急医が行うポイントオブケア超音波検査は、右上腹部痛を有する成人を評価する際に有用ですが、検査の特性は術者や適応によって異なります。1,700人以上の患者を対象としたメタアナリシスでは、急性胆嚢炎に対するポイントオブケア超音波検査の感度と特異度は、それぞれ71%と94%でした。これらの知見から、この迅速なベッドサイドで行う画像診断法は、胆嚢炎が同定された場合に治療を迅速に行うためには有用ですが、その診断を除外するには十分でない可能性があることが示唆されます。

詳しくは、「[Evaluation of the adult with nontraumatic abdominal or flank pain in the emergency department](#)」（救急外来における成人の非外傷性腹痛または側腹

痛の評価) 内のセクション「Role of point-of-care ultrasound」(ポイントオブケア超音波検査の役割) をご覧ください。

UpToDate活用のヒント

一般外科分野の閲覧数上位トピック ランキング

UpToDateでは、現在25領域、12,400以上のトピックを掲載しています。今回は2023年4月から2024年3月に日本からのアクセスが最も多かった一般外科分野のトピック上位5タイトルをご紹介します。

順位	タイトル
1	急性大腸憩室炎： トリアージと入院管理 (仮訳)
2	成人における急性虫垂炎のマネージメント
3	急性有石胆嚢炎の治療
4	成人の機械的小腸閉塞の病因、臨床的症候、および診断
5	非閉塞性腸間膜虚血

出典：2023年4月から2024年3月までの日本の利用者のアクセス状況より。

導入事例：「常に成長し、世界一を目指す病院」 はりま姫路総合医療センター

兵庫県内の二次医療圏域の一つである播磨姫路医療圏は、姫路市に人口、医療資源ともに一点集中しており、周辺地域の医療が必ずしも十分ではありませんでした。そこで、かつての兵庫県立姫路循環器病センターと製鉄記念広畑病院を統合・移転し、2022年に設立されたのが、兵庫県立 はりま姫路総合医療センター（愛称：はり姫）です。今回、播磨姫路医療圏における地域医療の中心的役割を果たす、はり姫の取り組みと、臨床意思決定支援リソースUpToDateの活用について、木下芳一院長ならびに関係者のみなさまにお話を伺いました。詳細は[こちら](#)をお読みください。

イベント情報

「第26回日本医薬品情報学会総会・学術大会」協賛のお知らせ

2024年6月1日(土)～2日(日)に千葉大学医学部、医学部附属病院で開催される「第26回日本医薬品情報学会総会・学術大会」に協賛します。臨床意思決定支援リソースUpToDateや医薬品情報リソースUpToDateおよびUpToDate Lexidrug (旧称Lexicomp) を活用し最新のエビデンスを踏まえた的確な医薬品情報を効率よく入手する方法について、デモンストレーションをご紹介します。

UpToDateの利用方法に関するご質問も可能です。また、弊社ブースに立ち寄られたお客様には素敵な記念品[※]を差し上げます。

どうぞお気軽にお立ち寄り下さい。

- 会期：2024年6月1日(土)～2日(日)
- 会場：千葉大学医学部、医学部附属病院
- 学会ホームページ:[こちらのページ](#)をご覧ください

※数量に限りがございます

定期オンラインセミナー開催のご案内

臨床・投薬意思決定におけるさらなるEBM実践を支援するため、無料のオンラインセミナーを定期開催しております。開催告知メールを現在受信しておらず、今後ご希望の方は、[こちらのフォーム](#)よりご登録をお願いします。毎月1回程度、Eメールでご案内いたします。皆様お誘いあわせのうえ、ぜひご参加ください。

登録受付中

- 5月9日（木） 5:30pm～6:10pm UpToDate徹底活用セミナー [お申し込み・詳細](#)
- 5月22日（水） 5:30pm～6:10pm 「対話型クリニカル・パス」および「臨床検査ガイドライン」の徹底活用 [お申し込み・詳細](#)

開催予定（受付準備中）

- [最新の年間開催スケジュール](#)をご参照ください。

※開催日時は予告なく変更になる場合がございます。



※参加登録ページで開催日時が海外のタイムゾーンで表示された場合は、「東京時間」をご選択ください。

読者アンケート

読者アンケートにご協力をお願いします

UpToDateニュースで今後お読みになりたいコンテンツのご希望について、アンケートにご協力をお願いします。回答をお寄せいただいた方の中から、先着10名の方にウォルターズ・クルワー特製記念品をお贈りさせていただきます。なお、当選者の発表は、発送をもってかえさせていただきます。

[こちら](#)よりアンケート回答フォームにお進みください。

このお知らせはお役に立ちましたか？  

[Privacy Policy](#) | [Unsubscribe](#) | [Manage Email Preferences](#)

Follow Wolters Kluwer

Wolters Kluwer
230 Third Avenue Waltham MA 02451



You received this message because you are a user of an UpToDate® or Medi-Span® solution.

[UpToDate®](#) | [UpToDate® Lexidrug](#) | [UpToDate® Patient and Member Engagement](#) |
[UpToDate® Digital Architect](#) | [Medi-Span®](#)

© 2024 Wolters Kluwer and its affiliates and/or licensors. All rights reserved.



Wolters Kluwer